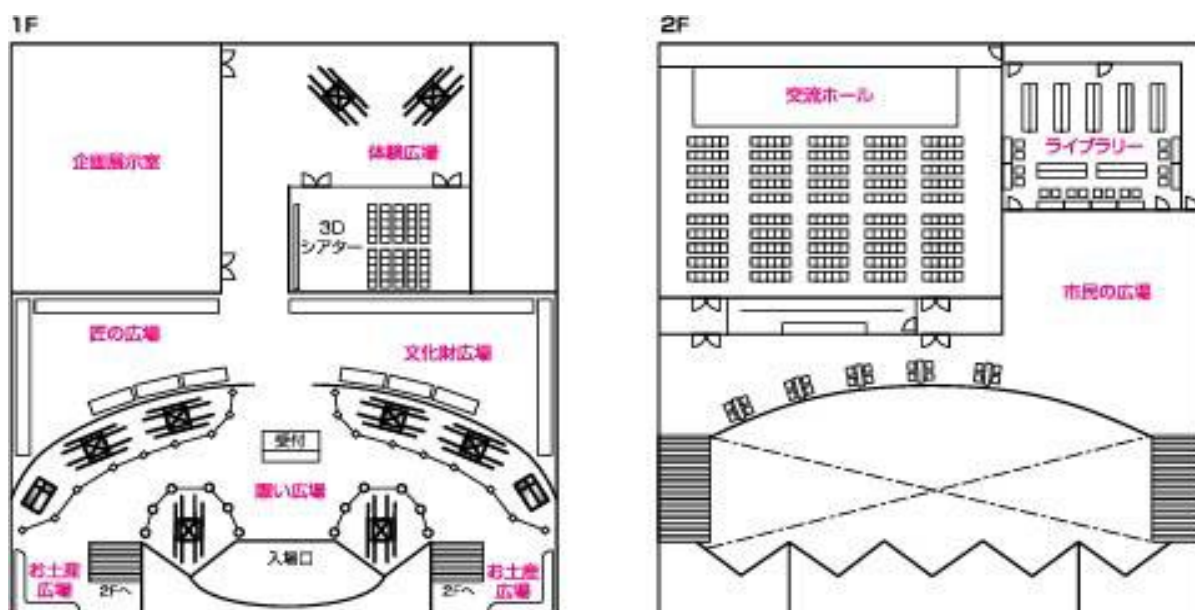




[寄贈・寄託・貸出]物件 聴き取り調査結果からの考察



平成19年 4月12日

屋台文化保存連絡会

平成19年4月12日

姫路市企画財政局長
石田 哲也 様

屋台文化保存連絡会

拝啓 春暖の候 姫路市行政に於かれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

平素は弊会活動に対しまして、格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

扱て、昨年6月7日の事務折衝に於きまして、弊会より御提案申し上げ貴局に実施戴きました“展示内容の硬直化解決”に向けた「寄贈・寄託・貸出物件聴き取り調査」（平成18年9月6日～11月30日）結果に関しまして、展示展開への考察【貴局より平成18年12月22日依頼受】が終わりましたので御報告申し上げます。

敬具

記

(項 目)	(頁)
1. 考察にあたっての展示品前提	3
2. 考察の方法	3
3. 各広場別考察	3～6
4. まとめ	6～7

1. 考察にあたっての展示品前提

	寄贈	寄託	貸出	合計
(1) 今回の調査により回答のあった物件	4	38	155	197
(2) 過去6回の展示会に出品された物件	48	7	266	321
(3) 既寄贈・寄託物件+本調査外予定物件	102	2	0	104
合計	154	47	421	622
備考	計上方法は、(1)と(2)と(3)とした。 過去出展されたミニチュア屋台は含まず。			

2. 考察の方法

「播州屋台会館(仮称)早期建設 提案書(平成15年10月07日提出)」記載、3. 展示概要の内、(1)賑い広場 (2)体験広場 (3)匠の広場 (4)文化財広場 (5)市民の広場に示した展示アイテムをどの程度充足出来、鑑賞に堪え得る展示展開が可能かと言う観点と、不足が有る場合の蒐集の視点を示し、評価・考察した。

3. 各広場別考察

※展示展開評価：◎＝可能
○＝蒐集に工夫をすれば可能
△＝蒐集に努力を要す
×＝困難

(1)賑い広場 (2)体験広場

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
現役屋台・檀尻計6台程度	屋台	3	1	8	○
退役屋台2台・檀尻1台程度	檀尻	1	0	2	○
各地区のブイ(太鼓を打つ撥)	ブイ	0	0	0	○
獅子舞の実演・体験教室	獅子	0	0	5	△
その他(太鼓・各種画・道中傘・書籍)	その他	2	1	6	◎
考 察					
<p>①屋台・檀尻の既寄贈・寄託物件(退役屋台・檀尻)は現在、他施設にあり移管が必要であるが、新調タイミングを見て指名蒐集すれば、左程困難では無いと思われる。</p> <p>②又、貸出数は充分であるので、オフシーズンは神社類型別展示も含めて十分対応は可能と思われる。</p> <p>③蒲団屋根型屋台については、今回の調査対象地区での所有絶対数が少く、開館時には市内外へのアプローチが必要。</p> <p>④又上記2.の貸出実績を蓄積すれば、当該地区の新調タイミングでの譲渡が容易になり、将来的には安定確保に何ら心配は無い。</p> <p>⑤ブイ(撥)は今回の調査対象外であっただけで心配は無い。</p> <p>⑥獅子は貸出回答しか無いので、展示・実演はオフシーズン限定になる。しかし乍ら貸出回答の中に姫路市無形民俗文化財に指定されている別所西獅子舞が含まれている意義は大きい。</p> <p>⑦体験教室用の獅子は、安価な獅子頭を製作すれば充分であると思われる。</p> <p>⑧太鼓・各種画・道中傘等は、祭禮の賑いを醸し出すには重要な展示アイテムであり、その回答があった事は心強い。</p> <p>⑨各神社・祭礼関連書籍はお土産広場に役立つと思われる。</p>					

(3) - A・D匠の広場／播州彫刻

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
播州彫刻	露盤	1	2	15	◎
	狭間	4	8	92	
	正角	4	4	8	
	下絵	92	0	5	◎
	道具一式	1	0	0	◎
	紋	2	0	0	
	脇棒持	2	0	0	
	蔵跳板	0	1	0	
	獅子咬	0	0	1	
考 察					
<p>①露盤・狭間・正角共に寄贈・寄託回答には歴代松本義廣一門の作があり、今後、過去出展退役物件を始め、退役逸品の指名蒐集を進めれば、十分に常設展示展開が可能である。</p> <p>②一方、貸出回答数も多く、オフシーズンには一門別展示も可能である。</p> <p>③更に、現在弊会が調査・良質保存中の播州飾磨彫刻師・故堤義法師の下絵・鑿等の道具一式は、地域固有文化の情報発信面からもオリジナル（下絵⇔現物比較展示等）な展示展開が可能で貴重なアイテムと成り得る。</p> <p>④加えて寄贈回答の中には、諸文献に掲載されている珍しい木製の紋、既寄贈・寄託物件の中には播州彫刻師秘法・返し眼工法を用いた屋台蔵跳板、脇棒受等があり、バラエティに富んだ展示展開が十分に可能である。</p>					

(3) - B匠の広場／縫物

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
縫物	水引幕	3	4	22	◎
	乗子衣装	0	12	22	◎
	高欄掛	0	0	24	○
	大幟	0	0	2	○
	昼提燈	0	0	8	△
	考 察				
<p>①水引幕の既寄贈・寄託物件は、現在他施設にあるので移管が必要であるが、寄託回答の2件は刺繍ではなく織技法で製作であり、技法比較展示等の展開も可能である。</p> <p>②乗子衣装は、回答に現代の刺繍物は無いが、比較的更新周期が短いので蒐集は容易であり、幸い寄託回答の内2件は染抜であるので刺繍物との比較・変遷展示も可能である。</p> <p>③高欄掛は貸出回答のみであったが、退役物を各地区で保管しているケースが多く、指名蒐集での確保は容易である。</p> <p>④大幟の現代物は新調タイミングを見ての蒐集努力が必要であるが、貸出回答の中に昭和初期の物件が有り、オフシーズンには変遷展示の可能性が有る。</p> <p>⑤昼提燈については、今回の調査対象地区での所有絶対数が少なく、開館時には市外へのアプローチが必要であるが、更新周期も短いとは言えず、現段階では、貸出によるオフシーズンでの企画展示に活路を見出さざるを得ない。</p>					

(3) - C 匠の広場 / 鋳金具

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
鋳金具 ※その他＝昇総才・総才端・水切・井筒通 井筒端・男柱・高欄・縁框 ツカ柱・丸桁 等	擬宝珠	1	0	20	△
	露盤	0	0	12	△
	紋	6	0	21	○
	梵天	0	0	2	△
	その他	24	4	102	○
考 察					
<p>①擬宝珠・梵天を始め鋳金具は、屋台本体に付帯しているケースが多く部位単独で蒐集するのは難しく、又金具製露盤に於いては特に絶対数が少ない為、当面、大々的な展示展開はオフシーズンに譲り、指名蒐集を地道に進め作品の確保を期したい。</p> <p>②作品数確保迄の間は、既寄贈・寄託回答物件を中心に展示を展開せざるを得ないが、擬宝珠を筆頭に、既に寄贈済みの鋳金具は昭和初期の名工の作であり、紋には現存最古と云われる極めて貴重な物件も含まれており、又寄託回答があった男柱金具は播州鋳金具の白眉とも言える最高水準の物件である事から、これだけでも十分に鑑賞に堪え得るが、指名蒐集が進めばこれらの作品を基軸として、変遷展示・同時代型式比較展示等、将来の展開に最も可能性を持った分野と言える。</p>					

(3) - D 匠の広場 / 神輿屋根型屋台内部構造

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
神輿屋根型屋台内部構造	屋台	1	0	0	◎
考 察					
<p>①内1件は抜魂済であり、且つ切断について寄贈元の了解を得ているので、優美・流麗な棟の曲線を生み出す技術等、受け継がれる大工の伝統の技を心ゆくまで来館者に御堪能戴ける展示展開が可能である。</p>					

(4) - 文化財広場

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
蒲団屋根型屋台雲板 伊達綱・房・隅絞 その他 ※その他＝絵馬・絵巻物・古文書	雲板	1	0	0	◎
	伊達綱	6	6	14	◎
	房	0	4	4	○
	隅絞	0	0	14	○
	その他	0	0	12	○
考 察					
<p>①既寄贈物件に蒲団屋根型屋台の雲板がある事は、全国で唯一神輿屋根型屋台を有しているここ播州にとって、蒲団屋根型屋台⇒神輿屋根型屋台への変遷展示＝地域固有文化の情報発信と云う非常に意義の有る展示が展開出来る。</p> <p>②又現在の伊達綱は、概ね質朴な縄の様な物や房から転じたと云われているが、房⇒伊達綱への変遷展示、伊達綱⇔隅絞の比較展示は勿論、唯一無二と思われる二股伊達綱を既に寄託物件として有しており、隅絞の蒐集（左程困難ではないと思われる）を行えば上記①と併せて、屋台学的見地からも大変に興味深い貴重な展示展開が可能である。</p> <p>③更に絵馬・絵巻物・古文書は、古より連綿と今に繋がる祭禮の風俗・変遷を知る上で極めて貴重な展示展開が期待出来る。</p> <p>④但し、絵馬の寄贈・寄託は困難であろうから企画展示に活用し、古文書・絵巻物は寄託を進展させ、常設展示が出来る様にする必要がある。</p>					

(5)－市民の広場

展示アイテム	部位	蒐集種別			評価
		寄贈	寄託	貸出	
ミニチュア屋台 播州祭礼玩具	ミニチュア	0	0	多数	○
	玩具	0	0	0	○
考 察					
<p>①ミニチュア屋台は個人愛好家所有の物が多く、今回の聴取調査では回答は得られていないが、過去の展示実績から所有者の展示意欲は旺盛であり、コンテスト等イベント・企画展示には何ら心配は無い。</p> <p>②従って開館時に蒐集すれば、常設展示も十二分に可能と思われる。</p> <p>③播州祭礼玩具については、各家庭に眠っていると思われるので、個人を対象に広報蒐集すれば確保出来ると思われる。</p>					

4. まとめ

- (1) 先づ、今回の調査に対する回答数(寄贈4・寄託38・貸出155件)をどう評価するのだが、勿論この物件数のみで提案書に記載した展示を全てカバーする事は難しいが、3. 各広場別考察で記述した様に観光的にも文化財・民俗学的にも、又屋台学的博物館要素面でもそれなりの展示展開が可能と思われる。
- (2) 特に匠の広場の播州彫刻に於いては、露盤・狭間の主要部位のみならず細かな部位・特殊な物件迄揃っている上、現在弊会が調査・良質保存中の播州飾磨彫刻師・故堤義法師の下絵・鑿等の道具一式を有しており、現段階でも播州オリジナルの展示展開が可能である事は高く評価出来る。
- (3) 又匠の広場では、全国唯一の神輿屋根型屋台を持つ播州地方の会館として、欠く事の出来ない内部構造をお見せする棟を既に蒐集しており、更に今回寄託回答が1件あった事も高く評価出来る。
- (4) 更に文化財広場では、伊達綱や房といったポピュラーなものは既蒐集・寄託回答があった事に加え、唯一無二と思われる物や、他では手に入れる事が極めて困難な物件を既に蒐集している事は高く評価出来る。只、隅絞に寄贈・寄託回答が無かった事は、左程蒐集が困難でないとはいえ若干割り引かざるを得ない。又絵馬の寄贈・寄託は困難であろう事から企画展示に活用し、古文書・絵巻物は寄託を進展させ、常設展示が出来る様にする必要がある。
- (5) 市民の広場については前掲の通り、愛好家・個人を対象に蒐集する必要がある。
- (6) 問題は、賑い広場の蒲団屋根型屋台、体験広場の獅子、匠の広場／縫物の昼提燈、及び匠の広場／鍔金具の擬宝珠・露盤・梵天である。類型すると、①蒲団屋根型屋台付帯物件＝蒲団屋根型屋台本体・昼提燈・梵天 ②鍔金具主要部位＝擬宝珠・露盤 ③獅子に大別されるが、①については姫路市内は神輿屋根型屋台が主流であるが、播州一円で絶対数は蒲団屋根型屋台の方が多く、開館に向けては蒐集対象地域を拡げ、神輿屋根型屋台に比して更新周期が長い事も考慮に入れ、更新情報へのアンテナを高くし、タイミングを逸さず中長期に亘って蒐集する必要がある。又②の擬宝珠については、更新タイミングを見て指名蒐集すれば解決すると思われる。一方金具製露盤に関しては絶対数が少ないので、当面は企画展示活用とし、詳細情報を集め彫刻露盤に変更する地区があれば、都度指名蒐集する長期戦略が必要である。次に③については更新が極めて稀であるので蒐集は困難ではあるが、現在各地区で保管してある退役物件を調査し、指名蒐集により幾点かでも確保を目指す必要が有る。

- (7) 以上広場によっては大小問題点も抱えているが、会館建設が成ればと云う前提に立ったとはいえ、実際には建設に向けて大きな進展が見られない中での調査であった事を考慮すれば十分に評価出来、建設が現実のものとなれば飛躍的に寄贈・寄託物件は伸びる。
- (8) 従って開館当初は、既寄贈・寄託物件並に寄贈・寄託回答物件と貸出物件とでローテーションを行い、オフシーズンの常設展示を展開する一方、そうする事で貸出元との連携を強固にし情報を得易い体制を整備すれば、更新タイミングを逸する事無く寄贈・寄託蒐集が進展し、寄贈・寄託物件のみで常設展示のローテーションが行え、展示品の硬直化問題は解決し、来館者の伸び悩み懸念解消にも大きく寄与する事となる。
- (9) 現在最も重要なのは、今回寄贈・寄託回答戴いた物件の中には、地域固有文化として極めて貴重な物件も含まれており、時期を逸すれば散逸する恐れもあり、この機会に寄贈・寄託を受諾する事を強く要請する。
- (10) 最後に、ザ・祭り屋台 in 姫路の終了する平成20年度以降、市民の愛郷心を高め、祭りどころ姫路を全国にどうPRして行くかと云う観点からも、兵庫県立歴史博物館が予定している祭禮分野の整備では表せ切れない、提案書に謳う三つのコンセプト（①播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設 ②播州固有文化を常に情報発信出来る施設③播州固有文化の保存(研究)・継承の施設）を併せ持つ「播州屋台会館(仮称)」の実現は、姫路市が標榜する「歴史・文化の香る国際交流都市」になくなくてはならない施設であり、早期の意思決定が必要である。

以 上